

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	介護予防・自立支援・重度化防止対策の積極的推進
区分(あてはまるものにチェックを)	<input checked="" type="checkbox"/> 自立支援、介護予防、重度化防止 <input type="checkbox"/> 介護給付費等適正化

現状と課題			
<p>健康づくりや介護予防の取り組みに関心を持っている人の割合に対して、町や地域での介護予防事業に参加したことがある人の割合が少ないことから、関心を持っている人を実際の活動につなげる必要がある。また、自立支援、介護予防、重度化防止を前提とした健康づくりを強化して健康寿命を延伸するため、介護予防・生活支援サービス事業や一般介護予防事業全体の枠組み、その事業について求められる機能や専門職の関与等といった課題や方策を検討していく必要がある。</p>			
第8期における具体的な取組			
<p>誰でも参加することができる介護予防活動として、「いきいき百歳体操」の地域での展開を図るため、介護予防に効果的な運動等を実施する住民主体の「通いの場」への支援を行う。</p>			
目標（事業内容、指標等）			
	令和3年度	令和4年度	令和5年度
参加者数	235人	310人	385人
団体数	17団体	20団体	25団体
目標の評価方法			
<ul style="list-style-type: none"> ● 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・住民主体の通いの場の設置箇所数を計上 <ul style="list-style-type: none"> ・通いの場ごとに参加者数を照会 			

取組と目標に対する自己評価シート(自己評価結果)
(実績評価)

実施内容
<p>◎令和3年度いきいき百歳体操参加実績：参加者数 258人、団体数 14団体</p> <p>◎いきいき百歳体操活動への理学療法士派遣：1回 初回支援 0回、3ヶ月後支援 1回。</p> <p>◎いきいき百歳体操の内容や効果、実施団体を広報やホームページに掲載し周知を行った。また、介護予防のための運動教室の参加者へいきいき百歳体操の実施場所や立ち上げ支援についての周知を行った。</p> <p>◎通いの場の交流会 新型コロナウイルスの影響で開催中止。</p> <p>◎新型コロナウイルス対策 感染拡大防止対策のため自粛要請があり、活動を再開されるにあたっては、各団体へ電話連絡や活動の場へ出向くなど行い、地域包括支援センターと協力しながら状況の確認や感染対策についての相談支援を行った。 また、参加者へ、広島県作成の通いの場における感染対策のちらし（「通いの場」での安心・安全のための活動ポイント）の配布を代表者に依頼した。 県が作成した「新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮した「通いの場」活動ルール」と「「通いの場」での安全・安心のための活動ポイント（R3年10月改訂版）」を代表者へ配布した。</p> <p>◎介護予防と保健事業の一体的事業実施 ポピュレーションアプローチとして通いの場において実施する体力測定の際に、後期高齢者の質問票を活用し、保健師が口腔機能向上について健康教育・健康相談を実施した。（了解の得られた2団体に実施。）</p>
自己評価結果 【△】←(◎, ○, △, ×のいずれか※を記載してください。)
<p>1か所の立ち上げ支援の依頼があったが、新型コロナウイルス対策の影響のため中止となる。目標の設置数に届いていないため「△」の評価とした。</p>
課題と対応策
<p>○課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立ち上げを支援する人や世話人の代わりに人はいない。 ・新型コロナウイルス対策で、会場の人数制限などで、参加人数が減少している。通いの場の数を増やすことが必要。 <p>○対応策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染対策を行いながらお元気サポーター養成講座を継続実施し、「いきいき百歳体操」を実施する通いの場の立ち上げの必要性について理解を深めてもらう。 ・既存の通いの場に、立ち上げの経緯や継続の秘訣等のアンケートを実施。その結果を通いの場の立ち上げ支援や担い手確保のための周知に活用する。（広報掲載、ちらしの作成など検討。） ・一般介護予防事業（筋力アップ教室など）参加者や医療機関へ「いきいき百歳体操」を実施している通いの場の一覧を配布し、関心を持っていただき、参加者や実施団体を増やす。

※「◎達成できた、○概ね達成できた、△達成はやや不十分、×全く達成できなかった」

取組と目標に対する自己評価シート（フェイスシート）

タイトル	介護保険事業の円滑な運営
区分(あてはまるものにチェックを)	<input type="checkbox"/> 自立支援、介護予防、重度化防止 <input checked="" type="checkbox"/> 介護給付費等適正化

現状と課題
<p>高齢化の進展に伴う介護サービスの利用者数の増加により、介護費用は増大している。こうした中、介護保険制度の信頼感を高め、持続的運営を図るため、利用者に過不足のない適切な介護サービスを提供する必要がある。そのため、国の「介護給付費適正化計画に関する指針」に基づき、介護給付の適正化に取り組む。また、国保連の給付実績や介護情報・医療情報を活用し、更なる給付適正化を図っていく必要がある。</p>
第8期における具体的な取組
<p>① 要介護認定調査の適正化 ② ケアプラン点検 ③ 住宅改修等の点検 ④ 縦覧点検・医療情報との突合 ⑤ 介護給付費通知 ⑥ サービス事業者の指導・監査</p>
目標（事業内容、指標等）
<p>【要介護認定調査の適正化】 正確な認定調査を実施するため、認定調査票を委託分も含め全券点検し、基本調査を特記事項に矛盾がないか等を確認する。</p> <p>【ケアプラン点検】 事業所に出向き、自立支援に繋がるケアプランであるか確認するとともに、意見交換を行い、ケアプランに対する理解を深める。</p> <p>【住宅改修等の点検】 福祉住環境コーディネーター資格取得者による点検により事前申請時の書面審査を行い、審査過程で疑義があれば、現地調査を行い、利用者の実情を確認した上で給付の決定を行う。</p> <p>【縦覧点検・医療情報との突合】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縦覧点検：国保連合会へ委託（点検・結果報告及び点検帳票の提供） ・医療情報との突合：国保連合会へ委託（点検及び結果報告） <p>【介護給付費通知】 利用者が自分の受けたサービス内容を改めて確認することで、適切なサービス利用を意識したり、事業者からの適正なサービス提供の実施を促進するため、利用者本人に対して給付状況をお知らせする。</p> <p>【サービス事業者の指導・監査】 介護給付等対象サービスの質の確保及び介護給付の適正化を図るため実地指導・監査を行う。</p>

目標の評価方法

● 評価の方法

各取組の実績件数等で評価した。

取組と目標に対する自己評価シート(自己評価結果) (実績評価)

実施内容

- ① 要介護認定調査の適正化
- ② ケアプラン点検
- ③ 住宅改修等の点検
- ④ 縦覧点検・医療情報との突合
- ⑤ 介護給付費通知
- ⑥ サービス事業者の指導・監査

自己評価結果 【○】 ←(◎, ○, △, ×のいずれか※を記載してください。)

実施内容のとおり行うことができた。

- ① 認定調査票を委託分も含め、全件点検を行った。(合計：1,805件)
- ② 2事業所に対しケアプラン点検を行った。また、改善を要求したものについて、後日提出を求め、確認を行った。
- ③ 住宅改修等の申請時に、福祉住環境コーディネーターの資格を持つ職員により審査を行った。(合計：179件)
また、書類審査で疑義がある場合は、積極的に現地調査を行った。(合計：3件)
- ④ 介護給付縦覧点検(12回/月1回)(過誤実績：4件、474,009円)、医療情報との突合(12回/月1回)(過誤実績：7件、1,488,362円)
- ⑤ 介護給付費通知を2回発送した。(合計：3932件)
- ⑥ 5事業所に対し実地指導を行った。(その内4件はコロナ禍のため書面で実施した。)

課題と対応策

・新型コロナウイルス感染症の影響で、ケアプラン点検及び実地指導の日程変更が生じ、最終的には実地指導4事業所について、年度末に書面実施となり、改善等の通知が4年度に入ってからになった。今年度、書面で実施する場合には、しっかり計画し、年度内に終わるように準備をしていきたい。

・住宅改修の適正化について、写真等では確認できないなど疑義がある場合は、現地調査等による確認を行っている。現地調査の際に本人やケアマネジャーと状況を確認し、適正な改修であるかを共に考えていく必要がある。

※「◎達成できた、○概ね達成できた、△達成はやや不十分、×全く達成できなかった」